

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	企画振興部空港企画課	職	課長	氏名	北村 裕一
評価者	組織		職		氏名	

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	小松空港の国内線・国際線の航空ネットワークを活用した人・ものの交流の促進	1 小松空港の利用者数(国内線)	千人	1,360 (R7)	1,562 (R1)	(R2)	
		2 小松空港の利用者数(国際線)	千人	300 (R7)	208 (R1)	(R2)	
		3 小松空港の貨物取扱量	トン	30,000 (R7)	5,898 (R1)	(R2)	
施策2	のと里山空港の利用促進とにぎわい創出による地域拠点としての活性化	のと里山空港の利用者数(国内線、国際チャーター便)	千人	155 (R7)	164 (R1)	(R2)	

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価	
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
					(年度)	(年度)						
施策1	課題1 国内定期航空路線の維持・拡充	利用者数(国内線)	千人	1,360 (R7)	1,562 (R1)	(R2)	小松空港国内線活性化事業	利用者、航空会社等	98,000			
	課題2 国際定期航空路線の維持・拡充	利用者数(国際線)	千人	300 (R7)	208 (R1)	(R2)	小松空港国際線活性化事業	利用者、航空会社等	80,000			
	課題3 国際物流拠点化の推進	国際航空貨物取扱量	トン	30,000 (R7)	5,898 (R1)	(R2)	小松空港国際貨物利用促進事業	航空会社、フォワーダー、荷主等	17,380			
施策2	国内定期路線の維持・拡充	利用者数(国内線、国際チャーター便)	千人	155 (R7)	164 (R1)	(R2)	のと里山空港需要拡大等強化事業	県内・首都圏利用者等	181,220			
							のと里山空港二次交通支援事業	県内・首都圏利用者等	2,710			
							国際インバウンドチャーター便運航支援事業	県内・首都圏利用者等	12,000			

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 小松空港国内線活性化事業	事業開始年度	H24	事業終了予定年度	
	根拠法令			
	・計画等			

作成者	組織	企画振興部空港企画課		
	職・氏名	主任企画員 島崎 寛之		
	電話番号	076 - 225 - 1337 内線 3725		

事業の背景・目的
 小松空港の国内線の維持充実を図るため、平成24年3月に策定された「小松空港活性化アクションプラン」に基づき、具体的な取組みを戦略的に実行に移すとともに、平成24年度に設置された小松空港活性化委員会において引き続き中・長期的な課題解決に取り組んでいる。
 令和2年度は、令和4年度末に控える北陸新幹線敦賀延伸(石川県内全線開業)に向けて、福井県や航空会社とも連携しながら、必要な対策を実施する。

- 令和2年度事業の概要**
- ・ビジネス利用サポートキャンペーンの実施
 - ・地元発旅行商品の駐車場無料化
 - ・観光需要創出のための旅行商品の造成、PRの強化
 - ・福井県民の利用促進を図るためのPR強化
 - ・乗継利用促進の強化
 - ・若者世代への航空利用支援による新規需要開拓
 - ・空港駐車場料金の無料時間の延長(30分→60分)

令和2年度の方向性
ビジネス利用対策
 小松・羽田便の積極的な利用を宣言する企業の利用を後押しするため、利用回数に応じて特典を付与するキャンペーンを継続実施

- 観光需要対策**
- ・地元発羽田便利用商品の駐車場無料化
 - ・市町との連携による地域資源を活用した旅行商品の造成支援
 - ・首都圏での石川・福井誘客キャンペーンの実施

- 福井県民の利用促進**
- ・モニターツアーの実施、SNS等を活用した情報発信
 - ・福井県との連携による石川福井周遊旅行商品の造成
 - ・航空利用未経験者に対する体験機会の提供

- 乗継利用の促進**
- ・航空会社や航空乗継利用促進協議会会員と連携したPR、乗継就航地双方での旅行商品造成
 - ・モニターツアーの実施、参加者によるSNS等による情報発信

若者世代への航空支援による新規需要開拓

- ・これまで航空利用のなかった若者に対し空港の利便性を働きかけ、航空利用の定着化を図る。

空港駐車場料金の無料時間の延長
 無料時間の延長(30分→60分)による、送迎利用等の利便性の向上及び空港へ気軽に立ち寄り親しむ機会の提供

施策・課題の状況						
施策	小松空港の国内線・国際線の航空ネットワークを活用した人・ものの交流の促進				評価	
課題	国内定期航空路線の維持・拡充					
	指標	利用者数(国内線)			単位	千人
	目標値	現状値				
	令和7年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	1,360	1,492	1,510	1,581	1,562	

事業費						
(単位:千円)		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業費	予算	70,000	84,900	91,400	97,640	98,000
	決算	77,000	90,400	92,900	100,490	
一般	予算	50,000	60,650	67,150	69,390	76,100
	決算	53,250	66,150	68,650	72,240	
財源		206,400	296,800	389,700	490,190	588,190
事業費累計						

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	左記の評価の理由
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	

事務事業シート（行政経営Cシート）

事務事業名 小松空港国際線活性化事業	事業開始年度	H5	事業終了予定年度	
	根拠法令・計画等	石川県長期構想		

作	組	織	空港企画課		
成	職・氏名	主幹 今村 昌大			
者	電話番号	076 - 225 - 1337 内線 3733			

<事業の背景・目的>
 小松空港に発着する国際定期便・チャーター便の運航支援に取り組むとともに、国際定期便の利用促進及び利便性向上を図ることにより、小松空港の更なる国際化に繋げる

<事業の概要>
 事業主体 小松空港協議会

1 国際定期便 運航支援事業費
 (1) C I Q業務円滑化支援費
 出入国審査及び検疫業務の円滑化のための支援（補助要員の派遣）
 (2) 外国語インフォメーション設置
 ソウル便・台北便利用者向け外国語ガイドを配置
 (3) 国際定期便就航支援費
 小松空港国際定期便の就航に係る支援

2 国際定期便利用 国際交流促進事業費
 国際定期便を利用して国際交流を行う団体に対し経費を一部助成
 交付額：1団体1回上限10万円（新規交流は上限20万円）

3 国際定期便 利用促進事業費
 (1) 国際線共通
 広域アクセス利用拡大、閑散期利用促進、インバウンド促進
 (2) ソウル便利用促進費
 韓国旅行及び仁川乗継旅行商品の造成販売支援、地元旅行者向け魅力再発見PR等
 (3) 上海便利用促進費
 中国旅行及び上海乗継旅行商品の造成販売支援、メディアを活用した旅行商品販売支援等
 (4) 台北便利用促進費
 台湾旅行及び台北乗継旅行商品の造成販売支援、リピーター層拡大に向けた情報発信、

4 国際定期路線開拓推進事業
 ・定期便化に向けて、双方向チャーターの実績を積み上げるため、航空会社や旅行会社への働きかけを行う。

5 運航会社との打合せ経費

施策・課題の状況							
施策 課題	小松空港国内・国際線航空ネットワーク活用による人・ものの交流促進 評価						
	国際定期航空路線の維持・拡充						
	指標	利用者数（国際線）				単位	千人
	目標値	現状値					
	令和7年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	300	195	203	244	208		
事業費							
（単位：千円）		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
事業費	予算	67,474	73,274	71,664	95,000	80,000	
	決算	80,664	68,274	79,044	94,750		
一般 財源	予算	67,474	73,274	61,744	89,850	74,700	
	決算	80,664	68,274	69,244	84,450		
事業費累計		834,321	902,595	981,639	1,076,389	1,156,389	
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)							
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)							

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	小松空港国際物流拠点化推進事業費 (小松空港国際貨物利用促進事業費)	事業開始年度	H7	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等			

作成者	組織	空港企画課
	職・氏名	主事・垣内 良馬
	電話番号	076 - 225 - 1338 内線 3738

事業の背景・目的
 小松空港の国際物流拠点化を図るため、上屋会社である北陸エアターミナルビル(株)や航空会社とも連携して、荷主やフォワーダーに対して、小松空港利用を呼びかけ、小松空港の国際航空貨物取扱量の確保・増加を図る。

事業の概要
 国際航空貨物の利用促進(小松空港協議会)

1. フォワーダー、荷主への周知、PR強化

①小松空港への切り替えを促すための支援

- ・他空港から小松空港への切り替えなど、小松空港の利用を検討するためのトライアル経費の一部を支援(上限200千円/社)
- ・温度管理など小松空港上屋作業の信頼性をPR

②航空会社等との連携による周知、PR

- ・MEX金沢2020(5月)、北陸技術交流テクノフェア2020(10月)など地元の展示会等への出展
- ※ 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため開催中止

2. 小松空港集荷対策助成

※小松通関が要件、輸出・輸入を対象

①フォワーダー集荷助成

貨物の増分に対し 5円/kg

②通関助成

通関量に対し 1円/kg

③荷主助成

貨物量に対し 5円/kg

3. 国際化推進対策事業

国際化推進セミナー
 台湾での商談会の開催(2~3月)

4. 北陸エアターミナルビル貨物部門への支援

施策・課題の状況							
施策	小松空港の国内線・国際線の航空ネットワークを活用した人・ものの交流の促進					評価	
課題	国際物流拠点化の推進						
	指標	国際航空貨物取扱量				単位	トン
	目標値	現状値					
	令和7年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	30,000	14,453	15,792	15,557	5,898		
事業費							
	(単位:千円)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
事業費	予算	17,800	17,380	17,380	17,380	17,380	
	決算	17,800	17,380	17,380	17,380		
一般財源	予算	17,800	17,380	17,380	17,380	17,380	
	決算	17,800	17,380	17,380	17,380		
事業費累計		479,456	496,836	514,216	531,596	548,976	
評価							
	項目	評価	左記の評価の理由				
	事業の有効性		(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)				
	今後の方向性		(県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 のと里山空港需要拡大等強化事業費	事業開始年度	H13	事業終了予定年度		作 組 織 企画振興部空港企画課
	根拠法令 ・計画等				成 職・氏名 課長補佐 稲江 健 者 電話番号 076 - 225 - 1336 内線 3724

事業の背景・目的
 のと里山空港の安定需要の確保を図るため、首都圏等への訴求及び地元への利用促進の働きかけを行っていく。

事業の概要
 事業主体 **のと里山空港利用促進協議会 会長 谷本 正憲**

(1) 首都圏需要拡大
 ～首都圏からの需要拡大(誘客促進、能登のファンづくり・リピーターづくり)の取り組み～

<旅行会社と連携した利用促進>

- ・ 食・文化等を活用した需要創出
- ・ 芸術イベントを活用した旅行商品造成支援(R2～)
- ・ 羽田乗継による利用促進
- ・ 片道利用旅行商品の造成支援
- ・ 二次交通の利便性向上による需要喚起

<情報発信による利用促進>

- ・ 現役世代に向けた利用促進PR(R2～)
- ・ ぶらり能登キャンペーン、冬季キャンペーン等の実施
- ・ 広域利用のレンタカー料金低廉化
- ・ 能登ならではの体験等を組み込んだツアーの実施
- ・ のと里山空港応援隊を活用したPR

(2) 地元利用促進
 ～県民の空港に対する関心持続と利用拡大～

①次代につながるマイ空港啓発事業

- ・ 子どもサポートキャンペーン (対象:未就学児)
- ・ 航空魅力発信事業 (対象:小学生)
- ・ 修学旅行サポートプログラム (対象:中学生)
- ・ 若者未来応援助成 (対象:高校生)

②空港の賑わい創出

- ・ 空港賑わい創出、空の日イベント等の開催

(3) ファミリー世代等の利用拡大

- ・ 親子マラソン大会の実施

施策・課題の状況							
施策 課題		のと里山空港の利用促進とにぎわい創出による地域拠点としての活性化				評価	
		国内定期路線の維持・拡充					
	指標	利用者数(国内線、国際チャーター便)				単位	千人
	目標値	現状値					
	令和7年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	155	161	165	170	164		
事業費							
(単位:千円)		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
事業費	予算	144,100	167,100	178,500	186,400	181,220	
	決算	200,100	201,100	217,500	196,350		
一般財源	予算	124,100	126,800	138,200	135,100	140,680	
	決算	145,920	156,900	175,065	151,985		
事業費累計		1,824,983	2,026,083	2,243,583	2,439,933	2,621,153	
評価							
	項目	評価	左記の評価の理由				
	事業の有効性						
	(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
	今後の方向性						
	(県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)						

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 のと里山空港二次交通支援事業	事業開始年度 H17	事業終了予定年度	作 組 織 空港企画課
	根拠法令 ・計画等		成 職・氏名 主事 甚田 洋克 者 電話番号 076 - 225 - 1336 内線 3736

1 事業の背景及び目的

のと里山空港の二次交通対策として、のと里山空港ふるさとタクシーへの運行支援を行う。

2 内容及び事業費

事業主体：のと里山空港利用促進協議会

事業名：のと里山空港二次交通支援事業費補助金

事業費：2,710千円

県、市町、民間が等分の負担により赤字補填を行い、運行維持を図っていくことでのと里山空港の利用促進につなげる。

〈負担割合〉

- 県(のと里山空港利用促進協議会) - 1 / 3
- 市町(のと里山空港利用促進同盟会) - 1 / 3
- 民間負担(能登半島広域観光協会) - 1 / 3

(のと里山空港ふるさとタクシー)

のと里山・羽田便の運航ダイヤに合わせて空港利用者を送迎する、予約・乗合制のジャンボタクシー

のと里山空港開港時から平成17年3月まで実証実験として運行(国庫補助対象事業)

平成17年4月より本格運行(県単独事業)

これまでの見直し状況

- ・平成17年10月に、事業の持続性を高めるため、利用実態等を勘案のうえ、運行内容(エリア、料金)の見直しを実施。
- ・平成19年度より、事業の収支改善を図るため、運行事業者に対する運行委託費の見直しを実施。
- ・平成23年度の運行事業者の選定について、競争入札制度を導入し、収支採算性の向上を図った。
- ・平成24年度の運行事業者の選定について、サービス内容の確認や業務改善につながる提案を求めるなど企画提案方式を採用した。
- ・平成24年7月より、利用者の一層の利便性の向上を図るため、運行ゾーンの見直しと運賃改訂を行った。
- ・平成28年10月より、事業の収支改善を図るため、運賃等運行体制の一部見直しを行った。

施策・課題の状況							
施策課題	のと里山空港の利用促進とにぎわい創出による地域拠点としての活性化					評価	
	国内定期路線の維持・拡充						
	指標		利用者数(国内線、国際チャーター便)			単位	千人
	目標値		現状値				
	令和7年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	155	161	165	170	164		
事業費							
(単位:千円)		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
事業費	予算	2,710	2,710	2,710	2,710	2,710	
	決算	2,710	2,710	2,710	2,710	2,710	
一般財源	予算	2,710	2,710	2,710	2,710	2,710	
	決算	2,710	2,710	2,710	2,710	2,710	
事業費累計		26,944	29,654	32,364	35,074	37,784	
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性	(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
今後の方向性	(県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)						

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	国際インバウンドチャーター便運航支援事業	事業開始年度	H15	事業終了予定年度		
		根拠法令	のと里山空港国際インバウンドチャーター便運航支援事			
		・計画等	業助成金交付要綱			

作成者	組織	空港企画課				
	職・氏名	主任主事 伊藤 俊介				
	電話番号	076 - 225 - 1336 内線 3736				

事業の背景・目的

のと里山空港へのインバウンドチャーター便を利用した海外からの旅行誘致を支援し、のと里山空港の利用促進と地域経済の活性化を図る。

- 事業の概要**
- (1) 事業主体
のと里山空港利用促進協議会
 - (2) 助成事業者
次の助成要件を満たす旅行を主催する旅行会社
 - ・のと里山空港発着の国際インバウンドチャーター便を利用すること
 - ・石川県内で2泊以上すること
 - (3) 対象経費
国内交通費及び石川県内の施設の入場料等に要する経費
 - (4) 助成額
インバウンドチャーター便を利用した旅客1人につき、1便(片道)あたり5千円とする。但し、1便(片道)あたり50万円を上限とする。
なお、相当便数の定期チャーター便を運航する場合は、助成総額において上限を設けるものとする。

のと里山空港国際チャーター便運航状況 (単位: 便、人)

区分	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	便数 (往復)	利用者数	便数 (往復)	利用者数	便数 (往復)	利用者数	便数 (往復)	利用者数	便数 (往復)	利用者数	便数 (往復)	利用者数
国際線	49	11,999人	12	2,411人	15	3,942人	5	1,072人	4	894人	14	3,608人
うちインバウンド便	49	11,999人	12	2,411人	15	3,942人	5	1,072人	4	894人	14	3,608人
区分	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	便数 (往復)	利用者数	便数 (往復)	利用者数	便数 (往復)	利用者数	便数 (往復)	利用者数	便数 (往復)	利用者数	便数 (往復)	利用者数
国際線	14	3,646人	15	3,948人	18	4,517人	13	3,152人	10	2,016人	7	1,615人
うちインバウンド便	14	3,646人	15	3,948人	17	4,250人	13	3,152人	10	2,016人	7	1,615人

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	のと里山空港の利用促進とにぎわい創出による地域拠点としての活性化				評価	
課題	国内定期路線の維持・拡充					
	指標	利用者数(国内線、国際チャーター便)			単位	千人
	目標値	現状値				
	令和7年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	155	161	165	170	164	
事業費						
(単位: 千円)		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業費	予算	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000
	決算	12,000	9,620	7,730	5,330	
一般	予算	12,000	6,000	6,000	6,000	6,000
財源	決算	11,375	4,810	3,865	2,665	
事業費累計		129,130	138,750	146,480	151,810	163,810
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性						
(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)						
今後の方向性						
(県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)						